

---

あ

---

イアコーンサイ  
レージ トウモロコシの雌穂（イアコーン）の一部あるいは全部を収穫し、密封・貯蔵し、乳酸発酵させサイレージ化したもの。なお、雌穂とは芯、子実とこれを包む皮をいう。

---

イタリアンライ  
グラス 寒地型イネ科牧草で、主に単年利用される。耐湿性が比較的強いことなどから、水田裏作での栽培にも適する。

---

液肥化（えきひ  
か） 流動性の高いふん尿混合物（スラリー）や尿等の液状の有機質を、微生物による分解（「発酵」とも呼ばれる。）等により、液状の肥料として利用できるように変換すること。家畜のふん尿の場合は、液肥化の過程で臭気の軽減が期待できる効果もある。

---

エコフィード エコフィード（ecofeed）とは、食品残さ等を有効活用した飼料のこと。環境にやさしい（ecological）や節約する（economical）等を意味するエコ（eco）と飼料を意味するフィード（feed）を併せた造語。

---

エコフィード認  
証制度 エコフィードの品質確保及び食品リサイクルへの関心と理解を深めることを目的に、一定の基準（食品残さ等の利用率、栄養成分の把握等）を満たす飼料を「エコフィード」として認証する制度。  
（認証機関：（一社）日本科学飼料協会）

---

エコフィード利  
用畜産物認証制  
度 エコフィードの取組を消費者までつなげることで、取組に対する社会の認識と理解を深めることを目的に、一定の基準（給与計画に基づくエコフィードの給与、販売までのルート特定等）を満たす畜産物を「エコフィード利用畜産物」として認証する制度。（認証機関：（公社）中央畜産会）

---

SNP（一塩基  
多型）遺伝子解  
析技術（すにつ  
ぷいでんしかい  
せきぎじゅつ） 一つの塩基配列の違いが、乳量等の個体能力の違いを生じさせることがあり、これを「一塩基多型（SNP（Single Nucleotide Polymorphism の略））」と呼ぶ。その関係を明らかにすることで、家畜改良に役立てる技術。

---

枝肉(えだにく) 牛、豚等をと畜して、頭、皮、内臓等を取り除き、骨付の状態、左右に分割した状態の肉。

---

オートソーティ  
ングシステム 豚が餌を食べるために休憩スペースから給餌スペースに移動する際、計量器の上を通過させることで体重を自動的に測定し、成長度合いに応じて畜舎を移動すべき豚や出荷体重に達した豚を仕分ける方法。人が一頭ずつ測定しなくてすむため、省力化

---

につながる。

オールイン・オールアウト	豚の収容施設を空にして、新たな豚群を一度に導入（イン）して一定期間飼養し、一度に出荷（アウト）する方式。豚群の出荷の度に、収容施設の水洗・消毒・乾燥を徹底することで病原体が減少し、豚群の健康維持、事故率低減及び生産性向上を図ることが可能となる。
<b>か</b>	
格付け（かくづけ）	（公社）日本食肉格付協会が定める等級のこと。牛枝肉については、歩留まり（A～C）及び肉質（5～1）により15段階に分類される。
加工原料乳（かこうげんりょうにゅう）	脱脂粉乳、バター、チーズ等の乳製品に仕向けられる生乳。輸入品と競合し取引価格が生産コストを下回っているため、加工原料乳生産者補給金を交付している。
家畜改良増殖目標（かちくかいりょうぞうしょくもくひょう）	家畜の能力（乳用牛の泌乳量、肉用牛の繁殖能力等）、体型、頭数について、10年後の目標を定める。（対象は、乳用牛、肉用牛、豚、馬、めん山羊）
家畜の排せつ物の利用の促進を図るための基本方針	家畜排せつ物の利用の促進のため、処理高度化施設の整備等の方向を示す。
環境負荷（かんきょうふか）	人の活動により、環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるものをいう。農業分野では、肥料・農薬の過剰な投入や家畜排せつ物の不適切な管理が環境負荷の主な発生要因となっている。
牛群検定（ぎゅうぐんけんてい）	農家が飼養している乳用牛の状況を客観的に数字で把握し、飼養管理改善や牛群改良に役立てるシステムのこと。具体的には、乳量、乳成分、体細胞数等のデータを個体毎に記録し、これらを集計・分析することにより、能力の高い雌牛の選抜を推進するもの。農家の牛群は乳用牛改良の基盤であり、収集されたデータは「検定成績表」として農家にフィードバックされ、能力に応じた雌牛の選抜的利用、飼料給与の改善、搾乳衛生管理、繁殖管理、遺伝的改良といった経営改善に役立っている。
供用期間【乳用牛】（きょうようきかん）	乳用牛が生乳を生産している期間のこと。

クーラーステーション	酪農家から集めた生乳を、県内外の乳業工場に効率的かつ合理的に流通させるために、一時的に冷却貯留し、大型ミルクタンクローリーに積み替えて出荷する施設。
組換えDNA技術応用飼料	一般的に遺伝子組換え作物と呼ばれる。「飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律」に基づき、家畜が組換えDNA技術応用飼料を摂取する際の安全性については農業資材審議会、人が組換えDNA技術応用飼料を給与された家畜由来の畜産物を摂取する際の安全性については食品安全委員会にそれぞれ意見を聴き、その結果を受けて農林水産大臣による安全性の確認が行われたもののみ飼料として利用可能。
公共牧場（こうきょうぼくじょう）	地方公共団体、農業協同組合、牧野組合等の団体が地域畜産の振興を図るため、農家の乳用牛または肉用牛を預かり、放牧利用を中心とした集団的な飼養管理を行う牧場。ふれあい機能をもつ牧場を「ふれあい牧場」とも呼ぶ。
耕作放棄地（こうさくほうきち）	農林水産省の統計調査における区分であり、以前耕地であったもので、過去1年間以上作物を栽培せず、この数年の間に再び耕作するはっきりとした考えのない土地をいう。
荒廃農地（こうはいのうち）	現に耕作されておらず、耕作の放棄により荒廃し、通常の農業では作物の栽培が客観的に不可能となっている農地をいう。
口蹄疫（こうていえき）	口蹄疫ウイルスが牛・豚などの偶蹄類（ひづめが偶数に分かれている動物）に感染する伝染病で、極めて高い感染力が特徴。口やひづめに水ぶくれなどの症状を示し、成長した家畜の死亡率は低い（子畜では死亡率が高くなる。）が、産業動物としての生産性は大きく低下することから、世界中で最も恐れられている家畜の伝染病の1つ。我が国の家畜伝染病予防法で「法定伝染病」に指定され、感染した家畜を発見次第、直ちに通報することや殺処分すること等を義務付けている。
コントラクター	畜産農家等から、飼料作物の収穫作業等の農作業を受託する組織。高齢化や飼養規模の拡大による労働力不足に対応するとともに、高性能機械の活用等による作業の効率化・収穫量の増加等に貢献。
混播【牧草】（こんばん）	牛の栄養バランス、草地の生産性を考慮して、イネ科牧草とマメ科牧草を混ぜて播種すること又はその牧草。
さ	
細断型ロールベ	飼料作物を細断しながら収穫し、ロールベールを成形できる

<p>ーラー（さいだんがたロールベ ーラー）</p>	<p>ロールベラー。高密度梱包が可能であるため、高品質なロールサイレージを省力的に生産することができる。比較的小規模なほ場の収穫にも適していることから、青刈りトウモロコシの生産を拡大する技術として注目されている。また、近年湿田での飼料用稲の収穫に適した飼料用稲用収穫機や、牧草も成形可能な汎用型収穫機が開発されている。</p>
<p>搾乳ロボット（さくにゅうロボット）</p>	<p>人に代わり自動的に搾乳する機械のこと。具体的には、穀類などの飼料により牛を柵に誘導し、牛が柵内に入ると乳頭をセンサーで検出し、搾乳のためのカップを装着して搾乳する。搾乳が終了するとカップを自動的に離脱させて、牛を退出させる。牛はいつでも好むときに自らロボットに入ることができ、ストレスを与えず乳量も増える。</p>
<p>搾乳ユニット自動搬送装置（さくにゅうユニットじどうはんそうそうち）</p>	<p>繋ぎ飼い牛舎内で頭上に設置されたレールを用い、搾乳ユニットを乳牛の近くまで自動的に搬送する装置。これにより、搾乳ユニットを持ち運ぶ労働が軽減される。</p>
<p>産地食肉センター（さんちしょくにくせんたー）</p>	<p>牛・豚等の飼養地域に設置される、牛・豚等のと畜、部分肉処理等を一貫して行うための食肉処理施設。</p>
<p>CBS（キャトルブリーディングステーション）</p>	<p>繁殖経営で多くの時間を費やす、繁殖雌牛の分娩・種付けや子牛のほ育・育成を集約的に行う組織。なお、CS（キャトルステーション）は、繁殖経営で生産された子牛のほ育・育成を集約的に行う組織であり、繁殖雌牛の預託を行う場合もある。</p>
<p>指定生乳生産者団体（していせいにゅうせいさんしゃだんたい）</p>	<p>加工原料乳生産者補給金等暫定措置法に基づき、都道府県知事又は農林水産大臣が指定する生乳生産者の団体（全国 10 団体）。より多くの酪農家から生乳の販売委託を受け、価格交渉力を強化して乳業メーカーと対等に交渉。また、生乳をまとめて輸送することによる輸送コストの削減や、販売先の調整による無駄のない生乳販売などにも取り組んでいる。</p>
<p>集送乳（しゅうそうにゅう）</p>	<p>酪農家が生産した生乳をミルクタンクローリーにより集め（集乳）、その集めた生乳を乳業工場に輸送（送乳）すること。</p>
<p>集約放牧（しゅうやくほうぼく）</p>	<p>乳用牛（搾乳）の放牧手法のひとつであり、放牧地をいくつかの区画に区切って、牛を移動させて放牧することにより、栄養価の高い短草状態の牧草を安定的に採食させることができる。生産性の低下を抑制し、コストを削減する放牧技術である。</p>

受精卵移植技術 (じゅせいらいんい しょくぎじゅつ)	優れた能力を持つ家畜から作出した受精卵を、他の家畜の子宮内に移植して優れた家畜を効率的に生産する技術。例えば、後継牛生産に向かない乳用牛に和牛受精卵を移植することにより、和子牛を生産することができる。
生涯生産性 (し ょうがいせいさ んせい)	単なる乳量だけでなく、乳牛の供用年数等の経済性も考慮した生涯における生産性のこと。
飼料用稲 (しり ょうよういね)	稲発酵粗飼料や飼料用米等、飼料用に利用される稲。国産飼料の確保や水田有効活用の耕畜双方にメリットがあることから、近年取組が拡大している。
稲発酵粗飼料 【稲WCS】 (いねはっこう そしりょう)	稲の実が完熟する前に、実と茎葉を一体的に収穫し、乳酸発酵させた飼料。稲ホールクロップ・サイレージ (稲WCS) と呼ばれる。水田の有効活用と飼料自給率の向上に資する飼料作物として、作付面積が拡大している。
飼料用米 (し りょうようま い)	家畜の飼料として利用される米。稲発酵粗飼料とは異なり、茎葉は利用せず、粳のみを活用する。輸入飼料価格が今後とも高水準で推移する可能性がある中で、輸入とうもろこしに代替できる国産飼料原料として、また、水田の有効活用と飼料自給率の向上に資する飼料作物として注目され、作付面積が拡大している。 なお、稲わらについても飼料利用が可能なことから積極的な活用が推奨される。
飼料添加物 (し りょうてんかぶ つ)	飼料の品質低下の防止や栄養成分の補給、飼料が含有している栄養成分の有効な利用の促進の目的で飼料に添加・混和等の方法によって用いられるビタミン・抗菌性物質等の総称。「飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律」に基づき、農林水産大臣に指定され、基準・規格を満たしたもののみ利用可能。
スーダングラス ・ソルガム	イネ科の飼料作物で、通常単年利用される。温暖地から暖地を中心に栽培されている。再生力が強いことから台風の常襲地帯でも栽培が可能。一般的に収量性、耐旱性及び耐湿性が高い。
スタンション  連動スタンション	牛の首の部分を固定しておく装置。主に繋ぎ飼い牛舎で使用されるが、放し飼い方式牛舎の給餌柵などにも使用されている。個体別給餌、発情や異常の発見しやすさ、他の個体同士との競合や闘争の防止など、個体管理の点で多くの利点がある。 連動したスタンションの開閉を一元的に同時に行うことが出来るシステム。
スモール子牛	概ね6ヶ月未満の牛のこと。

精肉(せいにく)	部分肉をスライス、カットするなどした状態の肉。(一般に、消費者が購入する状態の肉)。
性判別精液(せいはんべつせいえき)	フローサイトメーター(自動細胞識別装置)を用いてDNA量のわずかな違いを識別し、精子をX精子(雌精子)又はY精子(雄精子)に分別した精液。
<b>た</b>	
体細胞(たいさいぼう)	乳牛の血液中の白血球や上皮細胞が生乳中に混入したもの。産次を経るほど生乳中の体細胞数は多くなる。また、乳房炎に罹っている乳牛も一般的に体細胞数(白血球)が多くなるため、乳質向上等を図るための指標として活用されている。
たい肥化(たいひか)	有機物を含む材料を、酸素が十分にある条件下で微生物の作用により分解(「発酵」とも呼ばれる。)し、土壌改良資材や肥料に変換すること。家畜の排せつ物をたい肥化する場合は、水分含量の調整と通気性の確保が必要となるため、もみがらやおがくずなどの副資材を混合して、適宜かくはんを行うことが重要。
畜産クラスター(ちくさんクラスター)	畜産農家と地域の畜産関係者(コントラクター等の支援組織、流通加工業者、農業団体、行政等)がクラスター(ぶどうの房)のように、一体的に結集することで、畜産の収益性を地域全体で向上させるための取組。
チモシー	寒地型イネ科の多年生牧草。耐寒性が強く永続性、嗜好性及び栄養価に優れる草。北海道における栽培が多く、採草、放牧兼用種として利用される。高温・乾燥条件に弱いことから、冷涼地帯以外ではあまり用いられない。
繋ぎ飼い式牛舎(つなぎがいしきぎゅうしゃ)	繋留方法によって呼び方が異なり、ロープやチェーンなどで繋留するタイストール、牛体頸部をスタンションにより緩やかに挟んで繋留するスタンションストールなどがある。 個々の牛について作業者の目が届きやすいことが特徴。
DNA解析技術	遺伝的能力や遺伝病の発生を事前に把握するため、優良な形質や遺伝病に関連するDNA(遺伝子)を特定する技術。現在、優良形質については、黒毛和種の脂肪交雑、枝肉重量に関連するDNAが特定されつつあり、機能解析から特許に結びついた事例も出ている。また、遺伝病については、原因となるDNA(遺伝子)の特定により、牛で11種、豚で1種の遺伝病診断法が確立されている。
TMRセンター	粗飼料、濃厚飼料、添加物等を混合し、牛が必要とする全て

の栄養素をバランス良く含んだ飼料を農家の庭先まで配送する組織。栄養的に均一で選び食いができないという特長がある。  
※ TMR とは、Total Mixed Ration（完全混合飼料）の略。

---

## な

---

乳和食（にゅうわしょく） 味噌や醤油などの伝統的調味料に、「コク味」や「旨味」を有している牛乳（成分無調整牛乳）を組み合わせることで、利用されている食材本来の風味や特徴を損なわずに食塩やだしを減らし、美味しく和食を食べてもらう調理法。

ヌレ子(ヌレこ) 生後間もない子牛を指す言葉であり、特に乳用種の雄子牛に用いられる場合が多い（家畜市場で取引される乳用種の雄「ヌレ子」は、平均 21 日齢）。生まれたばかりの子牛は、体が乾いておらず濡れていることに由来。

農場トレーサビリティ（のうじょうトレサビリティ） 農場で、トレーサビリティ情報を含む各種の情報を記録・保存し、開示できるようにするため、養豚生産者団体が推進している取組。現在、実用化に向け実証等を行っているところであり、具体的には、生産者の農場に番号を付番し、出荷から小売りまで農場番号を伝達し、農場段階でのトレーサビリティの確立を図ることとしている。

農場 HACCP（のうじょうはさっぷ） 農場 HACCP は、畜産農場における衛生管理を向上させるため、危害を与える要因（微生物、化学物質、注射針の残留等異物など）を防止するための管理するポイントとして設定し、継続的に監視・記録を行うことにより、農場段階で危害を与える要因をコントロールする手法。

---

## は

---

バイオマス 再生可能な生物由来の有機性資源で、化石資源を除いたもの。例えば、家畜排せつ物や食品廃棄物はこれに含まれる。

パイプライン 搾乳機（ミルクカー）により搾った生乳を牛舎や搾乳室に配管されたパイプを通じて冷却装置（バルククーラー）に送り、冷却・貯蔵する方式。この配管そのものを指す場合もある。

ハラール  
ハラールと畜 イスラム法で定められた豚等の「不浄なもの」を含まない・触れていないことをハラールという。ハラール牛肉の生産には、豚等の不浄なものからの隔離、非ハラール製品と区別した状態でのと畜が求められる。

HACCP（はさっぷ） Hazard Analysis and Critical Control Point（危害分析重要管理点）の略。これまでのような最終製品の抜き取り検査を中心とする品質管理方法とは異なり、原材料から加工・包装・出荷に

至るすべての段階で発生する可能性のある食品衛生上の問題点を検討し、その発生を防止又は減少させる管理方式。

---

P E D	Porcine Epidemic Diarrhea（豚流行性下痢）の略。本病は食欲不振と水様性下痢を主な症状とするウイルスによる豚の伝染病である。全ての日齢の豚が感染するが、特に若齢豚で症状が重くなりやすく、哺乳豚は高率で死亡する。
-------	--

---

B S E	Bovine Spongiform Encephalopathy（牛海綿状脳症）の略。異常プリオンたんぱく質（細胞のたんぱく質の一種が異常化したもの）に汚染された飼料（B S E感染牛の脳等を含む肉骨粉等）の摂取により経口感染すると考えられている牛の疾病。平均5～5.5年間の長い潜伏期間の後、脳組織がスポンジ状になり、行動に異常を示すなどの神経症状を起こし、発病後2週間から6か月で死に至る。
-------	---

---

泌乳持続性（ひにゆうじぞくせい）	乳量の変化が小さく、泌乳ピーク時の乳量を持続する能力。
------------------	-----------------------------

---

部分肉（ぶぶんにく）	枝肉を、カタ、バラ、モモ等の各部位に分割し、骨や余計な脂肪等を取り除いた、肉のかたまり。
------------	--

---

フリーストール	放し飼い式牛舎で、列状に配置した牛床（ストール）に牛が自由に横臥できる方式をいう。牛が自由に行動できるため、牛にストレスを与えず、また省力化の効果が大きい。
---------	--

---

フリーバーン	放し飼い式牛舎で、全面に敷料をおき、どこでも牛が横臥できる方式をいう。牛にストレスを与えないが、適切な敷料管理とふん尿処理が要求される。
--------	--

---

分離給与（ぶんりきゅうよ）	粗飼料と濃厚飼料等を別々に給与する方式のこと。一方、粗飼料と濃厚飼料等を混合して給与する方式にTMR等の方式がある。⇒TMRセンター 分離給与は古くから行われており、設備投資を必要とせず、緻密な給餌方法をとれば、個体別管理ができるなどの利点がある一方、選び食いを助長し、給餌作業時間が長くとられるなどの短所がある。
---------------	--

---

ヘルパー	農家が休日を確認する場合や突発事故が発生した場合等において農家に代わり飼養管理等を行う者。
------	---

---

放牧畜産基準認証制度（ほうぼくちくさんきじゅんにんしょう）	自給飼料の利用拡大や放牧の普及促進と消費者の理解醸成を図るため、（一社）日本草地畜産種子協会が定めた放牧畜産認証制度。1頭当たりの放牧面積など一定の基準（放牧畜産基準）を満たす必要がある。
-------------------------------	--

---



せいど)

---

ほ乳(育)ロボット	子牛へ自動的に代用乳を与える装置。省力化だけでなく、子牛個体ごとにほ乳量やほ乳回数を自由にコントロールできるため、子牛の発育管理に役立つとともに、早くから集団管理にすることができる。
-----------	---

---

ま

---

(新) マルキン	肥育牛1頭当たりの粗収益(枝肉価格等)が生産コストを下回った場合に、生産者と国の積立金から差額の8割を補填金として交付する補助事業。前身の事業が牛肉輸入自由化を契機に緊急対策として創設されたことから「マルキン」との呼称が定着し、現行事業となった22年度より「新マルキン」と呼ばれている。
----------	---

---

---

マルチサイト	豚の生産を、種付け・妊娠・分娩期、離乳子豚期や肥育期などのステージごとに異なる場所(サイト)に分散して飼養する方式。日齢の大きい豚から若い豚への感染連鎖のリスクを低減させることができる。
--------	---

---

---

ミルクングパーラー	放し飼い方式で飼養される乳牛を搾乳するための部屋のこと。牛をパーラーに移動させて搾乳を行うため、省力化の効果が大きい。
-----------	---

アブレストパーラー	牛を横に並べて搾乳する設備で、搾乳者が入るスペースは牛2頭ごとに配置される。繋ぎ飼い式牛舎を改造して、低コストでつくることができるのが特徴。
-----------	--

パラレルパーラー	牛を横に並べて、搾乳作業者は牛の後肢の股間からユニットを装着して搾乳する設備。牛と牛の間隔が狭く、搾乳作業者の移動距離が非常に短いのが特徴。
----------	--

タンデムパーラー	牛を縦に並べて搾乳する設備。搾乳の終わった牛を出して、そのストールに次の牛を入れることができるので、常にストールを利用することができるのが特徴。
----------	--

ヘリンボーンパーラー	牛を斜めに並べて搾乳する設備。構造が簡単で、所要面積も比較的少ないのが特徴。
------------	--

ロータリーパーラー	牛を乗せた円盤を回転させ、1回転する間に搾乳する設備。搾乳作業者は移動することなく、牛にユニットを装着することができるのが特徴。設備が大型で、建設費が高い。
-----------	--

---

よ

用途別取引（よ  
うとべつとりひ  
き） 飲用向け生乳、チーズ向け生乳など、生乳の用途ごとに価格  
を分けて取引すること。

---

養豚農業の振興  
に関する基本方  
針 養豚農業を振興するため、国内由来飼料（飼料用米、エコフ  
ィード）の利用増進などに関する方向性を定める。

---

## ら

---

酪農及び肉用牛  
生産の近代化を  
図るための基本  
方針（酪肉近：  
らくにくきん） 酪農・肉用牛生産の健全な発展と牛乳・乳製品、牛肉の安定  
供給に向けた取組や施策の指針を示す。

---

酪農教育ファー  
ム（らくのうき  
ょういくファー  
ム） 子供達を中心に牧場へ受け入れ等を行い、実際に牛に触れた  
り、搾乳や牛の世話などの酪農体験を通じて、食といのちの学  
びを支援する牧場。

---

リキッドフィー  
ディング 飼料（エコフィードを含む）を水と混合して、スープ状に加  
工して家畜に給餌する方法。  
飼料が飛散しないため、畜舎内の粉塵が少ない。パイプライ  
ン等の給与機械の整備が必要といった特徴がある。

---

レンタカウ 放牧を行うために貸し出す牛のこと又はその仕組み。レンタ  
カウは県試験場などの公的機関が所有する牛の貸し出しが多  
い。

---